

プレクトランサス シルバークレスト&シルバーシールド

学名: *P. argentatus*

種子粒数の目安:

シルバークレスト(普通種子) - グラムあたり約 3,000 粒

シルバーシールド(ペレット種子) - グラムあたり約 1,100 粒

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.8 から 6.2、また EC は 0.75mmhos/cm(1:2)以下とする

播種

プラグトレイサイズ: 288 穴、406 穴など、あるいは同程度の汎用サイズのトレイを用いて、1 穴あたり 1 粒播きとする。覆土はしない

ステージ 1 - 発芽日数は、シルバークレストで 4、5 日、またシルバーシールドで 5 から 7 日要する

温度: 18 から 22°C。発芽はやや緩慢で、低めの温度の方が揃いがよい

光条件: 発芽には光が必要。種子が光を感受するまでは発芽は催されない

水分: 発芽時は、水分レベルをやや湿潤の level 4 に維持する

湿度: 子葉が発生する頃までは相対湿度を 95 から 97%を維持する。プラグ育苗のステージの後半では、病気にかかりやすい条件やリスクを排除する点から、過湿を避ける

ステージ 2

温度: 昼間 20 から 22°C 夜間 18 から 20°C

光条件: ステージ 2 および 3 では 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: ステージ 2 においては、やや湿潤の level 4から中位の level 3 の間で維持する

肥料: リン酸の低い硝酸態の肥料をレート 1 (100ppm(N)以下、EC:0.7mS/cm)で与える。培地の pH は 5.8 から 6.2 を、また EC は 0.5 から 0.7mS/cm(1:2)を維持する

ステージ 3

温度: 昼間 20 から 22°C 夜間 18 から 20°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: 水分レベルをさらに下げて、中位/標準(level 3)からやや乾燥(level 2)の範囲で管理する。極端な乾燥によって苗を枯らせないように注意する

肥料: 肥料の濃度をレート 2(100-175ppm (N)、EC: 0.7 から 1.2 mS/cm)に上げる。培地の EC は 0.7 から 1.0mS/cm(1:2)、pH は 5.8 から 6.2 で維持する

ステージ 4

温度: 昼間 18 から 22°C 夜間 16 から 18°C

光条件: 温度が適正であれば 54,000 ルクス(5,000 f.c.)まで可

水分: ステージ 3 と同じ

肥料: ステージ 3 と同じ

矮化剤(PGR)

シルバークレスト: 矮化剤は不要。必要に応じて、B ナインを 600 から 1,200ppm の濃度で葉面散布する。生長制御というよりも、葉色の発色において効果がある

シルバーシールド: B ナインを 2,500ppm の濃度で 1、2 回、葉面散布する。生長制御というよりも、葉色の発色において効果がある

※ シルバーシールドでは、ヨーロッパにおいては、B ナインを 600 から 1,200ppm の濃度で 1、2 回、葉面散布する方法も取られる。条件においては有効である

鉢上げから出荷まで

用土(培地)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.2、EC は 0.75mmhos/cm(1:2)とする

温度

昼間温度: 18 から 27°C

夜間温度: 16 から 20°C

プレクトランサスは温暖な条件でも、通常の気候でも育つが、温度が高い方が生育期間は概して短くなる

照度

温度が適正な範囲内であればできるだけ高く維持する

かん水

次のかん水までの間はやや乾燥気味に保つ。乾燥気味に維持することで、葉色(銀葉)の発色は向上する

肥料

週に1回の頻度で、リン酸の少ない硝酸態の肥料をレート 3(175-225ppm(N)、EC: (1.2-1.5mS/cm))の濃度で与える。必要に応じて、硝酸態、アンモニア態の肥料を併用することも可能である。ただし、培地の pH を 5.8 から 6.2、EC を 1.5 から 2.0mS/cm の適正域で維持する。濃度の低い

レート 2(100-175ppm (N)、EC: 0.7 から 1.2 mS/cm)の肥料を頻度を上げて用いる方法も可能であるが、その場合も上記で示されたように、pH と EC を適正な範囲で維持する

矮化剤(PGR)

高い光条件(照度)、十分なスペーシング、また乾燥気味の管理によって、徒長は抑えられる。シルバークレスト、シルバーシールドともにBナインによく反応し、効果がある

【北アメリカ使用】

シルバーシールド: Bナインを2,500ppmの濃度で2回、葉面散布する

シルバークレスト: Bナインを2,500から5,000ppmの濃度で1,2回、葉面散布する

【ヨーロッパ使用】

シルバークレスト/シルバーシールド: Bナインを1,600から3,200ppmの濃度で1,2回、葉面散布する。小さなポットやカットバック仕様、光条件の弱い環境では濃度を高めにする

ピンチ

ピンチは不要である

コンテナサイズ

シルバークレスト: 1本植えでは10.5cmあるいは同程度のサイズを上限とする。3本植えの場合は、25cmほどのバスケットにもよくフィットする

シルバーシールド: 1本植えで10.5cmから15-18cmのミドルサイズのポットも可能

これら2品種のプレトランサスは、それぞれミックスバスケットやコンテナに最適なアイテムです。**シルバーシールド**はコンテナの中心アイテムとして、また**シルバークレスト**は外周へのスプレディングアイテムとして高い利用価値があります

シルバークレストは、その性質上、枝が一方方向にアーチを形成しながら育つので、プラグ苗を複数移植する場合は、それぞれが向き合わないよう、アーチの先端をコンテナの外側に向けて移植する

平均的な生産期間

播種から移植まで(288穴トレイ): 5から6週

移植から仕上がりまで:

シルバーシールド:

汎用ポットで8から9週、また大鉢やハンギングバスケットでは9から10週

シルバークレスト: 汎用ポットで4から6週、また大鉢やハンギングバスケットでは6から7週

予想される一般的な障害等

適正な管理を施し、いわゆるIPM(総合的病虫害管理)が行なわれていれば、病気や虫害による大きな問題は発生しない

ガーデナーへのアドバイス

シルバーシールド:

草丈(花壇定植): 60から75cm

株張(花壇定植): 60から75cm

定植時のスペーシング: 30から45cm

定植場所:

原則、日当たりの良い場所を好むが、適宜日陰になるような場所も可。日当たりの良い方が、銀葉の色調が強くなる。一列に植えると、きれいなボーダーヘッジを形成する

シルバークレスト:

ミックスコンテナやハンギングバスケットのカスケード(頂部から下垂を形成)プラントとして主に用いるほか、単品によるハンギングにも可能な品種。シルバークレストは造園にも利用しやすく、とくにロックウォールや立体感のあるスペースではその機能を発揮する

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてお使いください。生産物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに沿った正しい使用方法とるようにしましょう

注意点: EC値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合もあります。